

＼＼約40年前の最先端都市がスマートに生まれ変わる！／／

# 多摩センター、新たなまちのつくり方

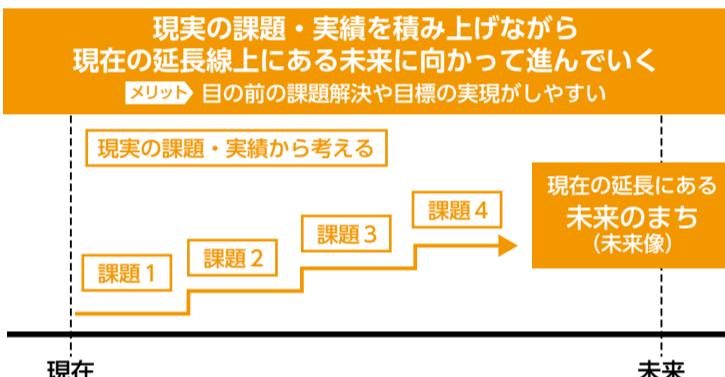
多摩センター駅周辺の住宅地に多くの人が移り住んでから、約40年が経過しました。この間、都市基盤が整備され、未利用地には多くの民間企業が立地し、商業・業務・文化・娯楽施設なども集積した多機能型都市として、行政・開発事業者など「つくる」側主体の「まちづくり」が進められてきました。

しかし、かつては時代の最先端を誇った都市基盤も、社会の変化に応じて使い方の前提・想定も変わり、あまり活用されない空間も生まれてきています。

## これまでのまちのつくり方 (計画されたまち)

主体 行政・開発事業者など「つくる」側

考え方 課題対応型の「まちづくり」



特徴

- つくれば使う
- 分野・事業・対象者ごとにつくる
- つくってから管理・運用を考える
- 行政などがつくったものを市民が利用

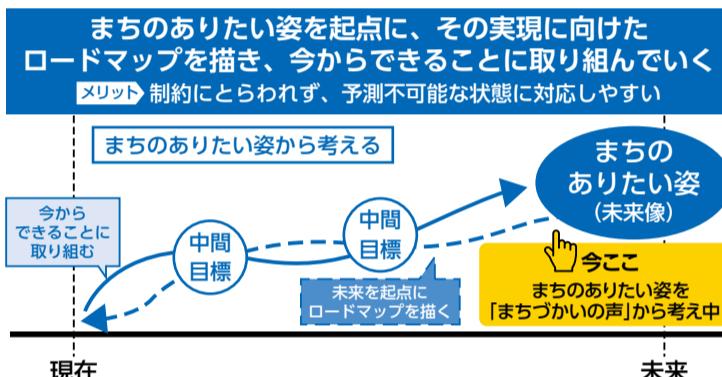
こうした中、市は、10年後・20年後を見据え、今ある資産(遊歩道、公園、公共施設、商業施設など)を誰がどのように使い、多摩センターでどのように過ごしたいか、市民など「つかう」側主体の「まちづくり」を起点とした、新たなまちのつくり方に挑戦しています。

市民の皆さん自身が望むこれからのライフスタイルから、まちのありたい姿(ビジョン)を描き、実現へ導く、そんな新たなまちのつくり方に一緒に挑戦しませんか？

## これからまちのつくり方 (市民・企業・団体が主体となって描くまち)

市民・企業・団体など「つかう」側

ビジョン型の「まちづくり」



- つかい方を考えてからつくる
- 分野横断的に考える
- つかいながら、つくりながら、管理・運用を考える
- 市民同士の行動(活動)を行政が支援

ざっくばらんな会話・  
チャレンジの支援

現在、まちの声を集め、まちのつかい方を試しながら、まちのありたい姿を考え中です。  
皆さんもまちを「どうつかうか」を考える場[多摩ラボ(仮称)]や実際にやってみる場  
(社会実験)に参加してみませんか？



### オープンイノベーションの場 「多摩ラボ(仮称)」

市内外の個人・企業・団体など、属性を問わず、多摩センターでの「やりたい」が集まる場です。

さまざまな主体が対等な立場で、ざっくばらんに会話をしたり、交流したりすることを通じて、実際に多摩センターのフィールドを使ったアイデアや技術のチャレンジなど、ワクワクすることをみんなでつくり出していくます。

#### ●多摩ラボ(仮称)

場所 パルテノン多摩5階  
(令和6年3月31日まで設置)

※詳細は、4月以降にまちの魅力発信サイト「丘のまち」などでお知らせします



▲多摩ラボ(仮称)の外観

### まちのシーンを描ぐ場 「まちづくり社会実験」

#### 道路空間での「まちづくり」社会実験を実施(令和5年度中)

社会実験は、まちのひとが「あつたらいいな」と考える未来をより具体的にイメージし共感できるか、このまちにどのような機能が必要かを洗い出すために実施します。実施日程など詳細は、4月以降にまちの魅力発信サイト「丘のまち」などでお知らせします。

社会実験の結果は、令和7年度以降、ハード整備・制度・サービスなど具体的な取り組みにつなげていきます。



多摩ラボ(仮称)や社会実験の詳細は、4月以降にまちの魅力発信サイト「丘のまち～東京・多摩ニュータウンに暮らす～」

<https://tamashi-oka.jp/> で発信します！



問 多摩センター活性化について=経済観光課 (338) 6830、(337) 7659、

社会実験について=都市計画課 (338) 6856、(339) 7754、道路交通課 (338) 6859、(339) 7754



人口と世帯数

世帯：74,533(14増) 人口：148,055(88減) [男：72,441(45減)、女：75,614(43減)]  
人口の内外国人住民：3,089※3月1日現在(住民基本台帳調べ)

多摩市は健幸まちづくりに取り組んでいます

